

地域連携  
だより

じんみ

vol. 9  
2025年1月[所在地] 〒235-0016横浜市磯子区磯子  
2-20-45[TEL] 045-752-1212 (代表)  
[URL] <http://www.isogohp.jp>

## 新年のご挨拶

患者総合サポートセンター長 副院長 竹下勇太郎



立春の候、皆様におかれましては、穏やかな春の始まりをお迎えのこととお慶び申し上げます

当院は2010年1月に現在の場所に病院移転をし、おかげさまで16回目の新年を迎えることができました。ひとえに皆様のご厚意ならびにご協力のたまものと感謝申し上げます。これまでも病院理念「親身、信頼、連携」のもと、地域貢献に取り組んでまいりましたが、今後さらに、地域の医療機関、介護福祉事業所の皆様との連携充実図り、邁進して参りたいと存じます。

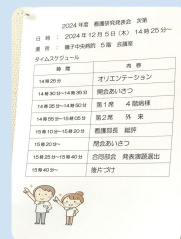
昨年、12月1日に60床の「地域包括医療病棟」を開設し、主に軽症から中等症の高齢者救急搬送を積極的に受け入れる体制を整えました。また、高齢者急性期医療において必要となるリハビリテーションや、栄養管理、口腔ケアなどの診療連携充実にも取り組み始めております。

患者総合サポートセンターも、毎月200件程度の入退院支援を実施しており、地域からの入院相談や、退院される患者さんの支援調整などに取り組んでおります。特に困難事例においては、多職種での連携を図りスムーズな支援ができるように努力しております。これからも地域の皆様からの意見に真摯に向き合い、『地域連携の要』として成長してまいります。

今年も当院は、磯子地域の急性期・回復期医療の中心を担えるよう、地域の関係機関の皆様との連携を密にしていきたいと考えております。本年も変わらぬお引き立てのほどよろしくお願いいたしますと共に、皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

## 活動報告 「第4回看護研究発表会開催」

医療介護ひかりグループ（国内 9病院・4介護老人保健施設）では、「看護研究の成果を共有し、看護の質の向上を目指す」ことを目的として、グループ内看護研究発表会を毎年2月に開催しています。演題提出にむけて、磯子中央病院では12月5日に院内発表会を開催し、演題選出を行いました。日々の業務の中での疑問や改善すべき点を、科学的根拠に基づいた看護実践につなげるべく1年間をかけて探求した成果の報告会でした。各部署の看護を共有し、研究者は、看護研究能力やプレゼンテーション能力を高める機会となりました。「継続は力なり」。次年度にむけて新たなスタートが始まります。



## リハビリテーション科のご紹介

急性期リハから訪問リハビリまで、シームレスなリハビリの提供が特徴のリハビリテーション科では、PT25名、OT6名、ST5名の総勢36名が日々活動しています。疾患別リハビリテーション料は運動器リハ、脳血管リハ、呼吸器リハ、廃用症候群リハを取得、広々とした約150㎡のリハビリ室の他、言語聴覚療法専門の治療室も備え、のびのびと充実したリハビリに取り組める環境を整えています。



物理療法機器をはじめ様々な設備で患者様の回復をサポート。給湯器から出来立てのお茶をサーブされる給水タイムは癒しのひと時と好評を頂いています。

スタッフは若手からベテランまで幅広い年齢層が在籍。リハ栄養やシーティング、装具チーム等各分野に特化したチーム作りや多職種カンファレンスなどで病棟生活全般に安心して療養できる環境作りを行っています。また院外では学術発表、講師活動等を通して高いレベルの臨床スキルを維持できるよう研鑽に努めています。



リハビリマイスターを目指して！



## 4階病棟を地域包括医療病棟60床に転換いたしました

### 地域包括医療病棟とは？

当院は2024年12月1日に、4階病棟（急性期40床＋地域包括ケア20床）を地域包括医療病棟60床に転換いたしました。

地域包括医療病棟は、高齢者救急患者の受け入れ体制を整え、急性期の治療を提供するとともに、多職種がチーム（リハビリ、栄養、退院調整等）となって協働し、早期の在宅復帰を支援する病棟です。入院後、治療と共に早期のリハビリを提供することで、入院によるADL低下予防に取り組み、スムーズな在宅復帰を目指します。また、身体機能維持に重要な栄養管理も、速やかに管理栄養士が栄養状態の評価・管理計画立案を行い、治療やリハビリがより効果的に進むように支援します。退院調整については、医師・看護師・リハビリスタッフ・管理栄養士・社会福祉士・薬剤師が連携し、適切な支援を行います。